

第6回 南アルプス市総合計画審議会 議事録

日時： 令和6年8月2日(金) 午後7時00分

場所： 南アルプス市役所 本庁3階 大会議室

出席者： 16 名

欠席者： 6 名

事務局： 南アルプス市(内田副市長、依田総合政策部長、深澤政策推進課長、他 4 名)

公益財団法人山梨総合研究所

(次 第)

1. 開 会

2. 副市長あいさつ

3. 会長あいさつ

4. 議 事

(1)第3次南アルプス市総合計画の基本構想(素案)について

(2)第3次南アルプス市総合計画の基本計画(素案)について

(3)将来像のイラストについて

(4)今後のスケジュールについて

5. その他

6. 閉 会

(配布資料)

(1)第3次南アルプス市総合計画 基本構想(素案)

(2)第3次南アルプス市総合計画 基本計画(素案)

(3)将来像のイラスト

(4)令和6年度第3次南アルプス市総合計画策定スケジュール(案)

(5)議事録(第5回審議会)

1. 開会

中澤副会長：第6回南アルプス市総合計画審議会にお集まりいただき、感謝申し上げます。

7月8日の梅雨明け以降、本当に暑い日が連日続いており、最近では熱中症警戒アラートの発令が当たり前のような状況になっている。ご出席の皆さんにおかれても、それぞれの立場でこの暑さ対策について非常に苦労されていると思う。さて、当審議会も今回6回目ということで、いよいよ最終段階へと駒を進めてきた。現実的で実効性のある計画になるよう、皆さんの忌憚のないご意見をお願いし、開会とする。

2. 副市長あいさつ

内田副市長：本日は6回目の総合計画審議会になる。5回目が6月20日に行われ、皆さんから多くのご意見を頂戴した。今回の基本構想・基本計画(素案)では、前回よりさらに細かく皆さんの意見を踏まえた修正がされている。総合計画は基本構想と基本計画、実施計画から構成されており、本日は基本構想と基本計画を審議会の皆さんにご議論していただく。実施計画は職員が策定し事業実施していくが、その根幹は基本構想・基本計画になる。本日頂戴したご意見を踏まえ、次回、9月中旬の審議会において総合計画(案)の最終形を示す。その後、パブリックコメントを経て12月議会への上程となる。本日の審議会では、委員の皆さんから積極的にご意見を頂戴したい。

3. 会長あいさつ

今井会長：皆さん、連日のオリンピック観戦で寝不足の方や、興奮しすぎて疲れている方もいるのではないかと思います。今、話があったとおり、この審議会もいよいよ大詰めということでよろしく願いしたい。副市長からの今後の日程のとおり、皆さんからご意見いただくのは今回と次回とになる。是非色々なご意見をお願いしたいと思う。

4. 議事

司 会：議事進行は慣例により、今井会長をお願いしたい。

今井会長：次第に沿って進める。(1)の基本構想(案)については、前回の審議会で委員の皆様から頂戴した意見を踏まえ、修正した点などを事務局から説明してもらう。今回の審議会では、主に(2)の基本計画(案)について、委員の皆様の専門分野などからご意見を頂きたい。

(1)第3次南アルプス市総合計画の基本構想(案)について

今井会長：議題(1)について、事務局より説明を求める。

事務局：(資料「第3次南アルプス市総合計画 基本構想(素案)」を基に説明)

今井会長：基本構想(案)については、前回の審議会で委員の皆様から全般的に頂戴した意見を

踏まえ、市の中でも議論を行い修正したものとなっている。土地利用のあり方については、今回新しく追加されたため詳しく説明してもらった。何か意見や質問があればお聞きしたい。

竹野委員：資料の24～25ページ、誘導する土地利用について1.と2.に分けて書かれているが、内容は白根 IC と南アルプス IC に関するもので合致しているように感じたため、分けて書く必要はないように思う。もう1点、25 ページの(4)広域連携による地域づくりとあるが、この内容を土地利用あり方の中で記載してもよいものかどうか。地域づくりだと土地利用の問題だけでなくもっと大きな問題となるのではないかと。

事務局：IC 周辺の土地利用については、まだ不透明な部分はあるが、市としては積極的に進めていきたいという考えからあえて強調して書いているが、改めて検討させてもらいたい。広域連携による地域づくりについては、ユネスコエコパークに関する要素から、地域連携による取り組みをまちづくりに生かすという観点からそのように記載している。基本的にはこの方向で進めたいと考えているが、少し検討させていただきたい。

竹野委員：現行計画では、1.で土地利用のあり方について、2.で広域連携によるまちづくりとなっており、同じ記載の方がよいのではないかと。

事務局：内容はこれでご理解いただき、構成については改めて検討させていただきたい。

折居委員：白根 IC と南アルプス IC に関する記載については、まちづくりを考えたときに、分けて書いた方がよいのではないかと考える。南アルプス IC はコストコができることで大きな変化が想定される。

今井会長：色々な意見が出ているが、また事務局の方で調整をお願いする。

須貝委員：今回幸福度やウェルビーイングを使っているが、そのはかり方についてどのように設定したのか教えていただきたい。

事務局：今回初めて総合計画で設定したが、国の方で示している指標を採用し、国や県内自治体との比較を行える点などから取り入れた。今後は計画期間の10年間を経年で、市民アンケートにより把握していく予定である。

須貝委員：基本的には市民アンケートでとるということでよろしいか。

事務局：その通り。

(2)第3次南アルプス市総合計画の基本計画(案)について

今井会長：次に議題(2)について、事務局より説明を求める。

事務局：(資料「第3次南アルプス市総合計画 基本計画(素案)」に基づき説明)

今井会長：委員の皆様からそれぞれの専門分野に係る点などについて意見をお願いしたい。

志村委員：資料の13 ページの防災について、今年1月1日に能登地方で大きな災害があったように、今はどこで大きな災害があっても不思議ではない。現在自主防災会などで活動し、防災の意識については地域の中で定着しつつあるが、まだまだ浸透し切れていない面もある。災害が発生する前と後で、住民がどのような活動を行うかが大事であり、

地区防災計画の策定に取り組んでいるが、もう少し早く進むようにしてもらいたい。

今井会長：事務局からの回答は、委員の皆様からの意見を一通り伺った後でとしたい。

芦澤委員：政策6の3つの施策について、それぞれよくまとめてあり分かりやすい。もし可能であれば、生涯学習を支える学校教育や社会教育などがあるが、今、家庭教育力の低下や二極化が進んでおり、その点についても触れてもらいたい。

今井会長：家庭教育についてこれまでの議論の中で出てきたか。

事務局：具体的な表現については、これまで現場の方からは出てこなかったが、家庭教育の格差や教育機会の問題などについては出てきているため、担当課と協議する中で、どこかに落とし込めるかどうか検討したい。

澤登委員：県でも進めている農福連携についてどこかで触れてもらいたい。

山口委員：DXについて、単純に何かをデジタル化するのではなく、問題を解決するツールとして考えてもらいたい。

須貝委員：全体的に異論や反論はないが、何より重要なのは評価検証だと考えている。今回はウェルビーイングを指標として採用するとのことだが、例えば、施策4の防災について、評価指標が4つしかないのはそれで十分なのか。行政として取り組むことと、指標が対応していないように思われる。また、ウェルビーイング指標だと抽象的で、評価検証した際にしっかりセグメントに分けて、例えば年代や性別、地区別に分けて分析を行ってほしい。それが間違いなく、将来の南アルプス市の政策につながると考える。委員会に出すまでは求めず、事務局としてしっかりと把握しておいてもらいたい。

竹野委員：資料の47ページ、観光の振興について、インバウンド観光は、多様化する観光客のニーズという表現で言い換えているのかもしれないが、言葉として触れた方がよいのではないか。理想とするまちの姿の中に観光施設の整備について触れているが、重点施策の中には見当たらない。

横森委員：内容というよりも言葉で気になった点として、資料の1ページ、33の施策についての記載があるが、施策2「みんなでまちづくりの推進」という言葉が、他の施策の名称と比較した際に違和感を覚える。指標の名称についても、現行計画では成果指標と記載していたものが、まちづくり指標という言葉に変わっており、先ほどの施策2の「みんなでまちづくりの推進」のまちづくりと混同してしまうように感じる。幸せ共感プロジェクトの記載については少し唐突感を感じる。

川村委員：自治会の立場から、施策9の高齢者福祉の充実について、各自治会の中で地域支援合いの活動をしており、第一層の市全体は介護福祉課が担当しているが、第二層の学校地域、第三層の自治会の活動については、市の社会福祉協議会の職員が援助してくれている。施策の方向性の中に社会福祉協議会の活動も入れてもらいたい。もう1点、資料の42ページの農林業の振興について、「農地の保全管理に努めます」と簡単に書かれているが、水路や農道の補修などについては、各地域の保全委員会の方が、地域住民と一緒に活動しているのが現状である。地域の保全委員会の活動につ

いても入れてもらいたい。

戸澤委員：保育環境の充実について、子育て支援課にお願いしたいのだが、一部の障がい児は市外の保育園に通っており、市内での受け入れる場所の整備を入れてもらいたい。子育てについては、愛育会が長く活動しているが、現状白根地区は取り組んでいるものの、他の地区では愛育会から脱会する地区が増えており、子育て支援課との連携を考えてもらいたい。

久保田委員：女性団体連絡協議会において、以前は市全体で全国に発信していた時期もあったが、今は愛育会による市全体で取り組む活力ある活動が少なくなってきており、女性の声が拾い切れなくなっている。愛育会からの声を少しでもすくい上げてもらいたい。自治会への加入について、移住者が加入しない問題が起きており、防災の面からも加入を促してもらいたい。自治会役員における女性の割合が目標値として記載されているが、やはり今後は女性の力が必要になると思う。

今井会長：愛育会の活動についてはどのように考えているか。

事務局：愛育会を始め社会福祉協議会など個別の団体の名称をすべて挙げることは困難であり、関係機関や関係団体との表記に止めている。例えば、施策マネジメントシートの方には愛育会の取り組みについて記載している。そうしたことで理解をいただきたい。

戸栗委員：観光の振興について、もう少し滞在型のあり方を考えてもらいたいと前回の審議会でも意見を出した。南アルプス市の場合、山岳観光や農業観光がメインとなってしまう、美術館などの文化施設を含めたコースを作って紹介するような観光施策、観光客が滞在する時間を延ばすための手段を考えてもらいたい。極論だが、例えばホテルの誘致なども考えられる。買い物をして帰ってしまうだけではない形の観光のあり方を考えてもらいたい。

小池委員：資料の 25～26 ページに何箇所か「社会的障壁の除去」という言葉が出てくるが、一般的に「バリアフリー」といった方が分かりやすいのではないか。ソフト面のことは記載があるが、例えば公共施設のバリアフリー化など、ハード面での記載が少ないように感じる。

有野委員：産業・土木の立場から、47～48 ページの観光の振興について、基本的に南アルプス市の観光については、山岳観光やフルーツ観光がメインである。歴史的・文化的資源の活用はこれからの課題だと認識しているが、モノ消費からコト消費に変わり、今後インバウンド観光が見込まれる中で、魅力的な観光スポットがない。新たな観光スポットの創設という文言がなく、物足りなさを感じる。例えば、夜叉神峠を整備することにより、日本の 1～3 番の高さの山が見えるなど、これ以上の観光スポットはない。

折居委員：幸せ共感プロジェクトは大分固まってきているように感じる。ここまで施策が固まってきたら、「〇〇の南アルプス市」などの将来像ないし理念を作ることもできるのではないか。特に幸せ共感プロジェクトの 2 つ目と 4 つ目が重要となると考える。プロジェクト推進の考え方の中で、市民・事業者と協働・連携のプロジェクト推進とあ

るが、現場を見ていて、特に南アルプス市が重視している観光分野の事業者に対して、現状、事業者を大切にして連携しているようには感じられない。シティプロモーション戦略に関する報告書の目的地のページに、中込農園やウエストリバーが挙げられており、そうした所を総合計画の中にも位置付ける必要があるのではないかと。せっかくポイントが明確になっているのに、3年経っても行政が具体化していないことには納得がいかない。担当部署が実際に動かなければ戦略の意味が薄れてしまう。絵に描いた餅になってしまうことが懸念される。現場の方との情報交換の中からは、行政が何もしていないとの声を聴いている。インバウンド対応についても、協力といっても行政側の動きが見られない。そうした点からも施策33の職員資質の向上が重要だと考える。市役所内の評価ではなく、外部からの知恵が求められる。民間企業では目標数値を企業内に掲載している。計画策定後は、効果の評価を行う観点から、まちづくり指標を役所内の各部署に掲示をしてもらいたい。

中澤副会長：農林業の振興について、42ページの新たな担い手の確保や育成は、毎年自分たちの事業計画の中でも課題として挙げられるが、そのために具体的に何をすることが重要となる。今般、新たに農業法人を立ち上げ様々な農作物の栽培を始めており、その中で人材の育成にも努めていきたいと考えている。長野県上田市のように、ある程度条件が良い農地は貸し手が増えるという事例も見られる。言うのは簡単だが具体的にに取り組むことは難しい内容である。南アルプス市では、農業観光が1つの武器になると考えるが、農業自体が衰退してしまうと観光として成り立たなくなってしまう。農業を上手に育て、すみ分けをしながら、遊休農地の活用に向けて、農業法人を中心に組み込んでいく。

今井会長：具体的な施策や取り組みについて意見をいただいた。総合計画については具体的な取り組みというよりも、より大きな視点からの内容を記載するものとなっていると考える。

事務局：行政の縦割りではなく全庁的に取り組んでいくことを重視するために、幸せ共感プロジェクトを記載した。地区防災計画についても、プロジェクトの中に記載をしており、全庁的に取り組んでいくこととしている。農福連携については担当課と協議したい。DXについては、デジタルを使うことで課題の解決につながることを意識していきたい。成果指標については進捗を測る上で重要と考えており、今回担当課でしっかりと検討した上で出してもらっている。観光の振興については多くのご意見をいただいた。点ではなく面としての滞在型の観光のあり方などについて考えていきたい。それぞれ直接的な表現ではないが、それを個別の計画の中で落とし込んでいってもらいたいことを想定している。担当課としてみんなでまちづくりを行っていかうという意識の下での記載としている。インバウンドについては国内外という表現の中に含めている。観光拠点についてはエコパ伊奈ヶ湖との周遊等の中で記載している。女性の視点については、各施策の中で各担当課において意識して取り組んでもらう。

今井会長：資料の1～2ページ、政策と施策、幸せ共感プロジェクトとあるが、施策については担当課やまちづくり指標が決まっているが、プロジェクトについては誰がどのように進めていくイメージなのか。

事務局：誰がやっていくかについては、個別には部門担当者となるが、そこを政策推進課がコントロールしていくイメージでいる。場合によっては、プロジェクトチームを組んで目的達成のために取り組んでいくことも考えられる。基本的には全庁的に取り組む中で、政策推進課が全体をコントロールしていくという考えである。

今井会長：予算の制約もあるが、外部からの意見も取り入れつつプロジェクトを進めていってもらいたい。

(3) 将来像のイラストについて

今井会長：次に議題(3)について、事務局より説明を求める。

事務局：(資料「将来像のイラスト」に基づき説明)

折居委員：最近クマが出たりイノシシが出たりするが、前にも提案させてもらったが、今犬を飼っている人も多いことから、山里に犬が遊べる場所、例えばドッグランがあってもよいのではないか。

有野委員：先ほど2人の女性委員から愛育会の話が出てきたが、南アルプス市は愛育会の発祥の地でもあり、90年の歴史がある。部分的に解散して、ないところもあるが、南アルプス市として90年間愛育の心をつないできたということもあるため、愛育の母と呼ばれる方のイラストを入れてもらってもよいのではないか。

須貝委員：スモモは入っているか。落合地区はスモモの特産地域でもあることから、スモモを入れてもらいたい。

川村委員：源地区の御勅使川の将棋頭を入れてもらいたい。

今井会長：確かに何か歴史的なものを入れてもらってもよいのではないか。

山口委員：10年後の南アルプス市の将来像ということでよろしいか。そうだとすると、東京タワーより東京スカイツリーの方が相応しいか。

事務局：東京タワーは東京というイメージと、南アルプス市が東京タワーの設計者である内藤多仲先生の出身地ということで入れている。

(4) 今後のスケジュールについて

今井会長：次に議題(4)について、事務局より説明を求める。

事務局：次の審議会を9月の中旬、2～3週目の開催で考えている。また委員の皆様にはお伝えさせていただく。次回第7回の審議会終了後は、パブリックコメントの実施となる。パブリックコメントの終了後、11月中旬までに第8回の審議会を開催し、そこで決まった案を12月開会の市議会にはかっていく予定である。

5. その他

事務局：前回の議事録をお手元に提示している。1週間以内、8月9日までにご確認いただき、何か修正等があれば連絡をいただきたい。併せてイラストに関する意見もそこまでにお願いしたい。

6. 閉会

事務局：本日の議題は以上となる。本日は、これで閉会とする。

以 上